

一本釣り漁師になりませんか（加太地区漁村づくり協議会）

○漁業種類（漁業の就業形態）

一本釣り+採貝・採藻（独立型漁業）

○漁業の特徴

加太地区では、主にマダイやアジ等を漁獲する一本釣りを中心に、サザエ・ワカメ・ヒジキ・天草などの採貝・採藻を組み合わせた漁業が営まれています。また、天然の物にこだわり養殖事業はおこなっていません。

一本釣りは、昔ながらの伝統漁法で魚に傷やストレスをかけない漁法によりほぼ周年行っています。また、採貝・採藻は、春頃にワカメ・ヒジキ、夏頃に天草を素潜りで採っており、夏頃にサザエ等を採っています。

特に友ヶ島周辺のマダイは、紀淡海峡の速い潮にもまれて育ち、身は良質でよく引き締まっています。



○年間スケジュールと対象魚種

地区	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
加太	← 採藻（ワカメ、ヒジキ、天草） →											
	← 採貝（サザエ等） →											
	← 一本釣り（マダイ等） →											

※年間操業日数：180日 ※天候次第では操業日数及び休漁日は変動します

○一日のスケジュール

漁業種類	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
一本釣り	操業				帰港	出荷	昼休憩	漁具修繕				

※一本釣りの出港時間は日の出の前に出港し操業するので正確な時間はありません

漁業種類	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
採貝 採藻			出港	操業				帰港	出荷			

○平均漁業所得（事例）

一本釣り：100万円/年（水揚金額200万円、支出100万円）
採貝・採藻：350万円/年（水揚金額400万円、支出50万円）
※但し、漁業所得は個人差があるため保障できません

○募集要件

<就業までの支援>

加太地区漁村づくり協議会が選任した漁業者が、次の研修等で漁業就業に向けてサポートします（国・県の支援制度を活用）

- ・漁業体験（1日）の実施
- ・トライアル研修（最長30日）：漁業の基礎や漁村暮らしを実体験(実践研修前の短期的な研修)
- ・漁業技能承継実践研修（最長23ヶ月）：漁業技能、漁具作成・補修、船舶・機器作業などの実践研修

※研修後、独立就業に向けてフォローアップを行います

○地域の特徴

加太地域は和歌山県の西北端に位置し、前方に友ヶ島を挟んで淡路島を望むことができる漁村です。

当地域は観光地としても有名で、春は淡島神社のひな流し、針供養、夏は海水浴、友ヶ島に訪れる観光客も多く、賑わっています。

また、毎月第一土曜日には、漁協主催で昼市を開催（毎年1月を除く）し、鮮魚の販売や魚のフライ定食等を提供するとともに、春と秋の年2回、通常の昼市より盛大なイベントとして、加太観光協会や漁協等主催による「桜鯛祭り」「紅葉鯛祭り」を開催しています。

（生活情報）

- 公共交通：最寄り駅は南海電鉄 加太駅
- 病院：酒井内科・佐谷医院
- 学校等：加太幼稚園・加太小学校・加太中学校



○漁村地域の取組

【ヒジキの一次加工＋共同販売】

加太海藻生産販売組合、加太漁協では、加太地先で収穫・集荷した海藻類を共同で一次加工し、製品を共同出荷及び直売する取組を行うことで、組合員の収入向上を目指しています。

【和歌山市中央市場への直接出荷】

加太漁協では、漁獲した魚の一部を直接和歌山市中央市場へ出荷する取組を始めており、関西圏及び近隣圏域への流通量増加に取り組むとともに、「加太の真鯛」をはじめとする地元水産物のブランド確立による魚価の向上に取り組んでいます。

○その他

一本釣り漁業はほぼ周年で、決められた休み以外は操業出来ます。

採貝漁業は天候が良く海が穏やか日にしか操業出来ません。

採藻漁業は海水温の影響で海藻が採れにくい年もあります。

○問い合わせ先

加太地域漁村づくり協議会（事務局：加太漁業協同組合）

担当窓口：（加太漁業協同組合 谷 誠人）

（TEL：073-459-0062、FAX：073-459-0340）